ずっと一緒に暮らしたいから

かわいいだけじゃない責任とルール

ペットは、私たちの暮らしにたくさんの笑顔や癒やしをくれる大切な存在です。でも「かわいい」と甘やかすだけでは、ペットを危険から守ることも、周りの人に迷惑をかけずに暮らすこともできません。家族として、そして地域の一員として、ずっと一緒に暮らすための「大切なルールやマナー」を一緒に見直してみましょう。

問 リサイクル衛生課
TEL 048-797-8028

その飼い方で大丈夫？ ペットの「常識」アップデート

「昔はこうだったから」という飼い方が、実は近隣トラブルやペットの危険につながっていることも。愛犬・愛猫を守るため、今のルールをおさらいしてみましょう。

01 フンの始末

昔：自然の物だから土をかける もしくはそのまま
今：必ず家に持ち帰って処分する

フンはすぐには土に還らず、衛生上の問題や害虫・悪臭の原因になります。トラブルを防ぐためにも、フンは持ち帰り、尿は水で流すのがマナー。自宅でトイレを済ませてから散歩に出ることも推奨されています。

02 散歩スタイル

昔：リードなしで自由に歩かせることも…
今：散歩時は必ずリードを着用する

リードは、飛び出し事故や、他の人・動物への飛びかかりを防ぎ、愛犬の命を守ります。なお、犬の放し飼いは、埼玉県動物の愛護及び管理に関する条例により禁止されています。

03 猫の飼育環境

昔：家と外を自由に行き来できる放し飼いが一般的
今：完全室内飼育が基本

交通事故や感染症から愛猫を守り、近隣でのフン尿・鳴き声トラブルを防ぎます。なお、環境省も室内飼育を推奨しています。

04 繁殖・不妊去勢

昔：繁殖は自然に任せることが多かった
今：不妊去勢手術を行う

不妊去勢手術は発情期のストレス軽減や病気予防に。不幸な命を増やさないことはもちろん、愛犬・愛猫の生活の質を高め、家族として長く幸せに暮らすためにも大切な選択です。

人間の責任とは。「かわいい」の先について考える

地域で共に暮らしていくために、私たちにできることを考えてみましょう。

さくらねこ活動
栗原由美子（くりはらゆみこ）さん
トリマー、愛犬飼育管理士、彩の国動物愛護推進員

ドッグトレーナー
矢島陽子（やじまようこ）さん
（一社）ジャパンケネルクラブ公認トレーナー、彩の国動物愛護推進員

地域の問題解決には住民の連携が不可欠

野良猫に不妊去勢手術を施して元の場所に戻すTNR活動や地域猫活動に取り組んでいます。耳先をV字にカットした「さくらねこ」は手術済みの証し。放置されたえさなどはトラブルの元になりますが、住民同士で協力して給餌やトイレを管理できれば快適なまちづくりにつながります。地域猫活動は過剰な繁殖を防ぐだけでなく、猫の一代限りの命を地域みんなで温かく見守り、全うさせ、野良猫を減らしていくための取り組みです。

大切な命だからこそ、責任を持って関わる

手術には、病気予防や尿臭の緩和など猫を守る側面もあります。猫の命は出会う人間次第。関わる以上は最後まで責任を持つことが必要です。えさをあげないだけでは解決しない上、放置すると、感染症や痛ましい事故のリスクが高まるため、問題が大きくなる前に地域で話し合い、埼玉県動物指導センター南支所へ相談を。人間と猫がお互い幸せに暮らせる方法を考えましょう。

「かわいがる」と「甘やかす」の違い

「かわいがる」は愛犬を理解して信頼関係を育むこと、「甘やかす」はその場の欲求を満たすことです。愛犬の「苦手」や「嫌い」にも寄り添いながら、人と暮らすために必要なことを一緒に学び、教える。それは愛犬が安心して過ごせる場所やできることを増やすことにつながります。公園などのマナーを守るのも、愛犬との世界を広げるために大切なこと。愛犬に寄り添いながら一緒に成長していきませんか。

健康や幸せをかなえる「本当の愛情」

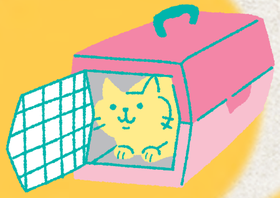
「犬のウェルビーイング」という言葉を知っていますか？ 犬の健康・快適・幸せな状態のことをいいます。清潔で快適な環境はもちろん、しつけや十分な運動、遊び、お散歩も大切です。においを嗅いだり、他の犬や人、社会に触れたりすることで満足度が高まり、問題行動の予防や老化防止、健康につながります。愛犬のパと体をバランスよく大切にすることが本当の愛情です。

「もしも」の災害時、ペットは大丈夫？

地震や台風などの災害は、いつ起こるかわかりません。いざというときに大切なペットの命を守ることができるよう、日頃から備えておきましょう。

ケージに入れる練習をしておく

避難所ではケージやキャリーバッグでの生活が基本になります。普段からハウスの練習をし、ケージを「安心できる自分の居場所」にしておきましょう。



首輪と名札は常につけておく

災害時のパニックで迷子になるペットも少なくありません。離ればなれになっても無事に戻ってこられるよう、首輪・名札・鑑札・狂犬病予防注射済票を常に装着させておきましょう。

防災アイテムを備えておく

避難所で必要なペット用品を用意しておきましょう。ペットフードやペットシーツを多めに買い置く「ローリングストック」を心掛け、手作り食だけでなくペットフードを食べられるようにしておくことも大切です。

備蓄品の一例
- □ 5日～7日分のペットフード、水
- □ 持病の薬
- □ ペットシーツ、トイレ用品
- □ 予備のリード
- □ 使い慣れたタオル など

役立つ情報が満載！
リーフレットを配布中

ペットとの同行避難や具体的な備えについて詳しくまとめた『ペットの災害対策パンフレット』を配布しています。万が一のときの行動を、ぜひご家族で確認してみてください。

詳しくは市HPで

問 危機管理防災課 危機管理防災担当
TEL 048-739-6830

ペットに関するご相談・お問い合わせ

犬を飼うときのルール・マナー
犬に関するご相談
問 埼玉県春日部保健所
TEL 048-737-2133

猫を飼うときのルール・マナー
猫に関するご相談
問 埼玉県動物指導センター南支所
TEL 048-855-0484